【学習進度表】 2024年合格目標 管理会計論 短答対策講義

回数			学習内容	頁
	学習方法			
1		第1章	原価計算総論	1~16
		第2章	費目別計算	17~42
2		第3章	製造間接費の配賦計算	43~60
		第4章	部門別計算	61~82
3	第I部	第5章	個別原価計算	83~102
	原価計算編	第6章	総合原価計算(第1節~3節、第5節~第7節)	103~114、132~150
4		第6章	総合原価計算(第4節、第8節)	115~131、151~164
5		第7章	標準原価計算(第1節~第4節)	165~216
		第7章	標準原価計算(第4節)	217~224
6		第8章	直接原価計算	225~244
		第3章	CVP分析	261 ~ 276
		第4章	予算管理	277~292
7		第2章	財務情報分析	251~260
,		第5章	資金管理	293~298
	第Ⅱ部	第6章	原価管理	299~310
8	管理会計編	第1章	管理会計総論	245 ~ 250
		第7章	ABC/ABM	311~318
9		第8章	業務的意思決定	319~328
9		第9章	設備投資意思決定	329~350
10		第10章	分権組織とグループ経営	351∼380

管理会計論(会計学[午前]) 過去の論文式本試験の出題テーマ

		第1問	***	第2問	## E -t-
	88 82 4	テーマ	難易度	テーマ 標準原価計算、	難易度
2006年	問題1	総合原価計算(工程別)	В	事業部制組織	С
	問題2	標準原価計算	Α	設備投資意思決定 	В
2007年	問題1	製造間接費の配賦	Α	(予算編成と予算統制)	В
	問題2	CVP分析、 原価管理	В	資金管理とキャッシュ・フロー管理	В
2008年	問題1	標準原価計算、 CVP分析	В	原価管理(原価企画)	Α
2000-	問題2	総合原価計算(組別)、 ABC	С	設備投資意思決定	Α
2009年	問題1	総合原価計算(等級別、組別)	Α	差額原価収益分析(自製か購入か)	В
2009-	問題2	標準原価計算、 ABC	В	分権組織とグループ経営の管理会計 (事業部制組織における業績評価)	Α
2040年	問題1	総合原価計算(単純、工程別)	В	原価管理(原価企画)	В
2010年	問題2	CVP分析、 ABC	В	設備投資意思決定	В
00445	問題1	部門別個別原価計算	Α	資金管理とキャッシュ・フロー管理	С
2011年	問題2	標準原価計算、原価管理	Α	差額原価収益分析	В
20425	問題1	標準原価計算	В	設備投資意思決定	В
2012年	問題2	予算、標準原価計算	В	分権化組織とグループ経営の管理会計 (事業部制組織における業績評価)	В
20425	問題1	部門別個別原価計算	В	設備投資意思決定	Α
2013年	問題2	総合原価計算	С	事業部の業績測定、 内部振替価格	В
00445	問題1	実際総合原価計算、 標準原価計算	Α	業務的意思決定 (最適セールス・ミックスの意思決定)	В
2014年	問題2	ABC	Α	予算管理(予算編成、予算管理と人間行動)	В
2045Æ	問題1	費目別計算、部門別計算、 総合原価計算	В	資金管理 (キャッシュ・サイクル)	В
2015年	問題2	仕損・減損の発生と標準原価計算	В	予算管理、分権組織とグループ経営(事業部の 業績測定)、設備投資意思決定	В
2046年	問題1	費目別計算、製造間接費の配賦計算、 個別原価計算、総合原価計算(組別)	В	資金管理(資金繰表、資金運用表)	С
2016年	問題2	標準原価計算	Α	部門別計算、 ABC	Α
2047Æ	問題1	部門別計算 (補助部門費の配賦、原価管理)	Α	設備投資意思決定	С
2017年	問題2	標準原価計算 (仕損・減損の発生と標準原価計算)	Α	分権組織とグループ経営の管理会計 (内部振替価格)	В
2018年	問題1	総合原価計算(連産品、副産物)、 業務的意思決定	В	資金管理とキャッシュ・フロー管理	С
<u>۲</u> ۵۱۵ ۳	問題2	標準原価計算 (仕損・減損の発生と標準原価計算)	Α	ABC、 業務的意思決定	В
2040 ==	問題1	費目別計算、製造間接費の配賦計算、 個別原価計算	Α	原価管理(原価企画)、 業務的意思決定	А
2019年	問題2	標準原価計算(仕損・減損の発生と標準原価計算)、減損率が安定している場合	С	業務的意思決定、 設備投資意思決定	С
2022	問題1	部門別計算 (補助部門費の配賦、原価管理)	Α	予算管理(予算統制、予算管理と人間行動)、 ABM	С
2020年	問題2	総合原価計算(度外視・非度外視、副産物)、マテリアルフローコスト会計	В	分権化組織とグループ経営の管理会計 (事業部制組織における業績評価)	В
222.5	問題1	総合原価計算(単一工程、工程別(累加法、非累加法))、区分処理法	В	分権組織とグループ経営(事業部の業績測定)、財務情報分析(デュポン)、CVP	В
2021年	問題2	標準原価計算(追加材料、累加法、非累加法)、振替価格	В	設備投資意思決定 (NPV、デシジョンツリー)	С
2225	問題1	総合原価計算(減損の安定発生)	Α	財務情報分析、資金管理および分権組織とグループ経営	В
2022年	問題2	標準原価計算、ABC	Α	CVP分析、業務的意思決定、設備投資意思決定	С

A ⇒ 平易 素点ベースで、5割以上の得点が望まれる。 ほとんどの論文受験生が解ける。 B ⇒ 標準 素点ベースで、3~5割の得点が望まれる。 合格するような論文受験生なら解ける。 C ⇒ 難解 素点ベースで、2~3割の得点が望まれる。 ほとんどの論文受験生が解けない(埋没問題)。



概ね、第1問が「原価計算」領域からの出題で、第2問が「管理会計」領域からの出題。

全ての問題が難解(Cランク)という年はない。

平易な問題(Aランク)と、標準的な問題(Bランク)をいかに早く見つけて、 得点を効率よく「拾えるか」・「積み上げられるか」が重要。 (いかに、難解な問題にハマらないか)

基礎力を徹底的に身に付け、試験会場で応用できる力を磨くことが重要。

講義と復習でしっかりインプットし、各種の答練で本試験を意識したアウトプット練習をする。

管理会計論(会計学[午前]) テキスト重要性一覧 + 過去の論文式本試験出題実績 早見表

前ページの、過去の論文式本試験の出題テーマを、テキストの項目別に整理すると、次のようになる。 削ページの、過去の論文式本試験の出題テーマを、テキストの項目別に発生すると、次のようになる。

(注意点)
・「重要性」は、「学習ガイドライン」に記載されているものと同じである。

⇒「計算問題」と「記述問題」の両方を含む、「論点」としての重要性であって、「記述問題」のみとしての重要性ではない。
・公認会計士試験が現行制度のもとで実施された2006年以降のデータを収録している。
・出題実績は、あくまでも「**論文式**」本試験のものである。

- ★ · · · 当該「章」のテーマが、「計算問題」または「記述問題」として出題されたことを表す。
 · · · · 当該「節」の内容が、「記述問題」として出題されたことを表す。
 □ <u>電要性A・Bの論点の理論問題は、いつ出題されてもおかしくないので、対策必要。</u>

= 1 =	部原価計算編							論	文式	本試験	の出題	宇结						
,	1)	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12		'14		'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22
第1章	原価計算総論												*			*		
第1節	原価計算基準												0					
第2節	原価計算制度と特殊原価調査																	
第3節	原価の要件と非原価項目															0		
第4節	原価の諸概念(基準4)																	
第5節	原価の分類と製造原価の分類(基準8)																	
第6節	製品原価計算の手続と工業簿記																	
第2章	章 費目別計算								*		*	*			*			
第1節	費目別計算の手続																	
第2節	材料費の計算								0		0							
第3節	労務費の計算	-									_				0			
第4節	経費の計算														Ŭ			
第3章	製造間接費の配賦計算		*				*	*			*	*			*			*
第1節	子 3文(旦 日)] 女 貝 (ソ) 日し 別以 日 子 製造間接費の配賦						_				0				^			0
第2節	製造間接費の予定配賦						0								0			آ
第3節	基準操業度							0										
第4節	製造間接費予算														0			
第4章	首 部門別計算					*	*		*		*	*	*		*	*	*	
第1節	部門別計算の基礎					0					Ô						0	
第2節	部門別計算の手続						0		0		0					0		
第3節	製造部門費の予定配賦										0		0		0	0		
Atr-=									A			A						
	個別原価計算						*		*			*			*			
第1節	製品別計算の基礎																<u> </u>	
第2節	個別原価計算の基礎																	
第3節	仕損の会計処理(基準35)																	
第4節																		
네고ㅜ다	作業屑の会計処理(基準36)		<u> </u>				•								l .			
第6章	章 総合原価計算	*		*	*	*			*	*	*	*		*	*	*	*	
第6章 ^{第1節}	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎	*		*	*	*			*	*	*	*		*	*	*	*	
第6章 第1節 第2節	を 総合原価計算 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24)	*		*	*	*			*	*	*	*		*		*	*	
第6章 第1節 第2節 第3節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入			*	*	*				*	*	*		*		*	*	0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理	*		*	*				•	*	*	*		*		*		0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・滅損の会計処理 工程別総合原価計算			*	*	*				*	*			*		*	•	0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23)			*						*	*	•		*		*		0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22)			*	0					*	*							0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23)			*						*	*			•		*		0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損、減損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算		*	*	0		*	*		*	*		*					0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節 第8節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・滅損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算	0	*		0 0		*	*				0	*	0	0	0	0	0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節 第8節	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損、減損の会計処理 工程別総合原価計算 組別総合原価計算 組別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算	0	*		0 0		- 1	*				0	*	0	*	0	0	0
第6章 第1節 第2節 第3節 第5 第5 第6 第6 第6 第7 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	を 総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算	○★○			0 0		- 1				*	0		0	*	0	0	0
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算 「標準原価計算の基礎(上級) 標準原価計算の基礎(上級)	○★○			0 0		- 1				*	0		0	*	0	0	
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 第7節 第第8節 第 1節 第1節 第2節 第3節 第4節	を	○★○			0 0		- 1	0			*	0	0	0	*	0	0	
第6章 第1節 第2節 第3節 第5節 第65節 第67節 第7章 第1節 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・滅損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算 「標準原価計算の基礎《上級》 標準原価計算の基礎《上級》 標準原価計算の手続 標準原価差異の詳細な分析 仕損・減損の発生と標準原価計算	○★○			0 0		- 1	0			*	0	0	0	*	0	0	
第6章 第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第5節 第6節 第第第 第第第 第第第 第第第 第第第 第第第 第第 第 第 第 第	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算 「標準原価計算の基礎 《上級》 標準原価計算の基礎 《上級》 標準原価計算の手続 標準原価計算の手と標準原価計算 世直接原価計算 直接原価計算	○★○			0 0		- 1	0			*	0	0	0	*	0	0	
第6章 第1節 第2節 第3節 第45節 第56節 第66節 第7章 第7章 第1節 第3節 第3節 第1節 第3節 第3節 第4節 第3節 第3節 第4節	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算 「標準原価計算の基礎(上級) 標準原価計算の基礎(上級) 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続 標準原価計算の手続	○★○			0 0		- 1	0			*	0	0	0	*	0	0	
第6章 第1節 第2節 第3節 第5節 第65節 第67節 第7章 第1節 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10 第10	総合原価計算 総合原価計算の基礎 期首仕掛品があるときの計算(基準24) 追加材料の投入 仕損・減損の会計処理 工程別総合原価計算(基準23) 等級別総合原価計算(基準22) 連産品および副産物の計算 「標準原価計算の基礎 《上級》 標準原価計算の基礎 《上級》 標準原価計算の手続 標準原価計算の手と標準原価計算 世直接原価計算 直接原価計算	○★○			0 0		- 1	0			*	0	0	0	*	0	0	0

		論文式本試験の出題実績															
第Ⅱ部 管理会計編	'06	'07	'08	'09	'10	'11	開 . 12	<u>人工</u> '13	本試験 '14	115		'17	'18	'19	'20	'21	'22
第1章 管理会計総論																	
第1節 管理会計の意義と機能																	
第2節 戦略と管理会計の関係 《上級》																	<u> </u>
第3節 品質原価計算																ш	Щ
第2章 財務情報分析《上級》																—	_
第1節 財務諸表分析																*	*
第2節 収益性分析																0	0
第3節 安全性分析																\vdash	0
第4節 キャッシュ・フロー分析																	Ŭ
	•																
第3章 CVP分析		*	*		\star											\star	*
第1節 CVP分析の基礎																	
第2節 CVP分析の方法		0	0													0	0
第3節 CVP分析の前提と応用 第4節 原価予測の方法					0											igwdown	<u> </u>
第4節 原価予測の方法				<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>					<u> </u>	ш	
第4章 予算管理		*					*		*	*					*		
オード から 日本 第1節 予算管理の基礎		_					^		^	^					^		
第2節 予算の体系と種類																\vdash	
第3節 予算編成									0								Г
第4節 予算統制															0	П	
第5節 予算管理と人間行動 《上級》									0						0		
第6節 予算管理システムが抱える問題点 《上級》																ш	Щ.
每r来 次人每用 // L 41 \\		_							A	A	A		A				_ A
第5章 資金管理《上級》 第1節 資金管理の意義		*				*			*	*	*		*				*
第2節 連転資金の管理									0	0			0			$\vdash \vdash \vdash$	0
7200 是我只见少日生						l	l	l .	l .	U			U		l .		
第6章 原価管理《上級》		*	*		*	*	*							*			
第1節 原価管理の新しい体系																	
第2節 原価企画		0												0			
第3節 原価維持と原価改善					0		0										Ш
第4節 原価企画・原価維持・原価改善の相互関係					0	0										ш	Щ
第7章 ABC/ABM			1	1	*				1		1		*		*		
第1節 伝統的な原価計算の問題点			*	*	_				*		*		_		_		*
第2節 ABC					0						0		0			$\vdash \vdash$	0
第3節 ABM《上級》															0	$\vdash \vdash$	Ť
																	_
第8章 業務的意思決定		*		*		*			*				*	*			*
第1節 意思決定の基礎				0					0								
第2節 受注可否の意思決定																igsquare	<u> </u>
第3節 自製か購入かの意思決定		0				0										igspace	—
第4節 販売か追加加工かの意思決定 第5節 最適セールス・ミックスの意思決定																$\vdash \vdash$	—
第5節 最適セールス・ミックスの意思決定 第6節 経済的発注量の計算																$\vdash \vdash \vdash$	
第7節 価格決定																$\vdash \vdash$	\vdash
	I																
第9章 設備投資意思決定	*		*		*		*	*		*		*		*	*	*	*
第1節 期間損益とキャッシュ・フロー								0									
第2節 設備投資案の評価方法	0		0		0			0				0					
第3節 NPV法とIRR法の対比《上級》	0													0		ш	<u> </u>
第4節 キャッシュ・フローの予測				 												igsquare	—
第5節 法人税等の影響 第6節 資本コスト				-		-	-	 	 	!					 	$\vdash \vdash$	
コクレ学 「加りは			1	<u> </u>	1	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	1	1	1	1	<u> </u>	لــــا	
第10章 分権組織とグループ経営	*			*			*	*		*		*			*	*	*
第1節 分権化と管理会計																	
第2節 事業部の業績測定				0			0								0	0	
第3節 内部振替価格 《上級》	0			0			Ť	0							Ī	0	Г
第4節 日本企業における事業部制の展開																	
第5節 企業価値・事業価値の評価 《上級》																	
	•			•													

★原価計算基準の性質 (P2)

<u>◎設定前文の要約</u> ←昭和37年(1962年)をイメージすること!

- ① 従来は、原価計算は、「財務諸表作成」や「価格計算」のために行われてきた。
- ② 近年(昭和37年)では、原価計算は、上記の2つの目的に加えて、「利益管理」や「原価管理」のためにも行われている。
- ③ そのため、大蔵省として、これらの目的を一斉に達成できる「原価計算基準」というものを設定する必要がある。
- ④ 「原価計算基準」は、あくまでも実践規範としての「基本的なわく」である。

◎いずれの計算目的にもともに役立つように形成



原価分類方法	ツール	目的
形態別分類	費目別計算 ⇒ 部門別計算 ⇒ 製品別計算	財務諸表作成
管理可能性に 基づく分類	標準原価計算	原価管理
操業度との関連 における分類	直接原価計算	業務計画 (利益管理)

・目的ごとに異なる原価データを使用するのではなく、同じ元データを基礎とし、原価分類方法を使い分け、 計算手続を使い分けることで、それぞれの目的を達成できるようにしている。

★原価計算基準における原価計算の目的 (P3)

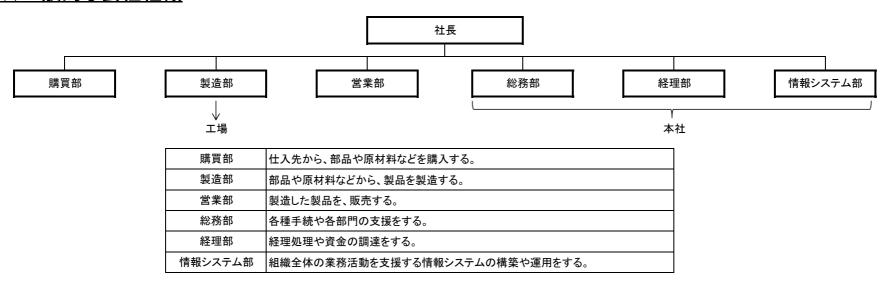
目的	説明			テキストの章
		原計編	第2章	費目別計算
		原計編	第3章	製造間接費の配賦計算
(1)財務諸表作成	製品原価の正確な計算	原計編	部門別計算	
		原計編	製品別計算(個別原価計算)	
		原計編	第6章	製品別計算(総合原価計算)
(2)価格計算	政府の軍需品購入価格(今日的意味合いなし)	_		
(3)原価管理	コスト削減	原計編	第7章	標準原価計算
		原計編	第8章	直接原価計算
(4)予算管理			CVP分析	
(4) 了并自注			第4章	予算管理(予算編成・予算統制)
		管理編	第8章	業務的意思決定
(5)基本計画設定	設備投資意思決定	管理編	第9章	設備投資意思決定

★商業簿記と工業簿記

商流図



★一般的な会社組織



★労務費の仕訳 (P34)

・賃金台帳(入門テキスト参照)の見方は次のとおりである。

支給額	基本賃金に、残業手当や危険作業手当などの加給金と、
(額面金額)	家族手当や通勤手当などの諸手当を加算した、本来受け取ることができる金額。
控除額	健康保険料や厚生年金保険料などの社会保険料と、所得税の源泉徴収額の金額。 会社が天引きする。
差引支給額 (手取り)	支給額-控除額であり、各工員の給与口座に入金される金額。

・上記金額を、工員ごとに毎月算定し、その総額としての金額につき、たとえば7月期の支払については以下の仕訳を行う。

賃金 7,700,000 / 預り金 1,200,000 ⇒所得税源泉徴収620,000円と

諸手当 180,000 / 現金預金 6,680,000 社会保険の個人負担分580,000円。

・所得税は、預り金を計上した翌月の10日に、会社がまとめて税務署に納付する。

預り金 620,000 / 現金預金 620,000

・社会保険料は、預り金を計上したその月末に、会社がまとめて年金事務所に納付する。

預り金 580,000 / 現金預金 580,000

・なお、上記の580,000円はあくまでも本人負担額であって、

折半されているもう一方の会社負担額580,000円は「賃金」a/cではなく、「法定福利費」a/cで計上されている。

法定福利費 580,000 / 未払費用 580,000

★消費賃率 (P35)

◎ポイント

分子	 加給金を足す。 未払調整を行う。
分母	「休憩時間」は含まない。

なお、「就業時間」の内訳の覚え方は次の語呂合わせはいかがでしょう?

段ボールの加工の間に手を休める。

★個別賃率と平均賃率の特徴 (P37)

(基本的な考え方)

同一作業には、同一賃率が適用されるべきである(正確な製品原価計算)。

★外注加工賃の処理 (P41)

- (①と②の仕訳の意味合い)
- ① 材料を製造現場に投入したのと同じ仕訳(無償支給のケースでは、売掛金や収益は発生しない)。
- ② 材料費50円、外注加工賃20円の合計70円の仕掛品ができた。

★複合費を設ける意義 (P42脚注)

部門別計算を行っているような大規模な工場では、たとえば「修繕部門費」や「動力部門費」をみれば、 修繕や発電にどれほどの金額がかかっているのか、すぐに判明する。 しかし、父ちゃん母ちゃんでやっているような中小企業では、修繕や発電にかかるコストを集計する必要がある。